小山市議会議員　議会活動報告　2020総括編／初夏号

# 大木ひでのり

小山市東黒田 216-2　TEL.0285-45-1137　FAX.0285-45-5767

まずは健康最優先！

日頃のご支援に深く感謝と御礼を申し上げます。

災害は忘れた頃に…。という言葉とは裏腹に、一昨年の大水害、昨年からの新型コロナウイルス感染症の拡大等、自然の脅威にさらされると、改めて人間の無力さを感じざるを得ません。

しかしながら、そんな状況だからこそ今まさに政治が問われているのです。

パイロットの賃金がなぜ高いのか考えたことがありますか？
それは、マニュアルのない異常事態が起こったとき、まさに有事において、乗客を安全に帰還させる使命を担っているから、と言われています。

今の世界はまさしく有事です。政治家はこんなときだからこそ、人々を混乱なく安全・安心に導くことが、使命であり責任であると思っています。

まずは自らが範を示し、終息に向けた取組みをできるところから行ってまいります。

私“大木ひでのり”は、つらいときも、苦しいときも、いつも傍らで温かく見守って下さる皆様のために、努力を惜しまず日々精進を重ねてまいります。

今後ともご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

小山市議会議員　大木ひでのり

## ○皆さまの“声をかたちに！”

地域の主な要望を浅野市長に提出いたしました。

① 通学路防犯灯設置２路線（間々田地区）
② 道路拡幅、排水対策整備（間々田地区）
③ 排水対策整備（大谷南部地区）
④ 農道整備（大谷南部地区）
⑤ 道路整備（桑地区）
⑥ 農道拡幅整備 継続（大谷南部地区）
⑦ 多目的広場照明設置（間々田地区）　等

施行前

施行後

古くなった公園の遊具を新しくしました。

道路の路肩を土留めと砕石入れの工事を行いました。

用水堀の暗渠工事を行いました。

## 小山市の令和３年度一般会計予算状況について

令和３年度の歳入歳出の予算額は、前年度より約３４億円減（△５％）の約６３９．５億円となり、内自主財源は約５４．３％の３４７億円、市税額は２６６億円です。
今後、新型コロナウイルス感染症の市独自の対策等によりさらに増加される懸念があります。

### ○市債（借金）

今期の当初予算における市債額（借金）は６７億円です。
本市の一般会計における借金累計額は、令和２年度当初予算額で４９２億円、さらに、特別会計と企業会計を加えた累計額は８９８億円となります。
これらの数字を見ても、速やかな財政再建は避けて通ることはできない状況です。

### ○その他の主な事業

| | |
|---|---|
| ①市体育館・豊田中学区小学校建設 | １６億６０百万円 |
| ②学校・公園・道路等維持補修 | １１億９８百万円 |
| ③排水対策強化 | ６億３６百万円 |
| ④市役所新庁舎整備 | ６億　百万円 |
| ⑤テクノパーク小山南部（特別会計） | ５億２１百万円 |

### ○財政調整基金（預金）推移

| | |
|---|---|
| 令和元年度末残高 | １２億２６百万円 |
| 令和２年度積立額 | １億３７百万円 |
| 令和２年度取崩額 | １億６１百万円 |
| 令和２年度末残高 | １２億０３百万円 |
| 令和３年度取崩見込額 | ２４万円 |

議会改革推進協議会報告書（答申）

### ○議員定数が２名減の２８名に！

小山市議会議長から当協議会に諮問された件において協議の結果結論に至り「小山市議会改革推進協議会設置要綱第６条」に基づき、令和３年１月４日答申しました。
この答申は３月議会で可決され、これにより議員定数が２名減数され２８名となり、次回の選挙から適用となります。
引き続き、市民の皆さまにご理解いただけるよう議会改革を進めてまいります。

◇政務活動費関係
・後払い方式への変更について
・領収書等のインターネット公開について　他
◇議員定数関係等
・議員定数削減について　他

## ワクチンの接種が始まりました。

ワクチン接種が４／２１から始まりました。
ワクチンの絶対数が少なく、暫くの間ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。
感染終息のため、引き続き、基本的な感染防止対策に努めて下さい。

## 我慢そしてまた我慢！

令和２年を振り返ると、まさにコロナに明け暮れた１年でありました。
そんなウイルスとの戦いが続く７月、５期２０年続いた市政に終わりを告げ、浅野市政が誕生しました。
市民は大きな決断をしたのです。
私は、政治家の一人として、今後も是々非々を貫き愛する小山市の発展に微力ながら尽くして参りたいと思っております。
立派な新庁舎も竣工し喜びも束の間、コロナ対策を始め、やるべきことは待ったなしです。
政治は、本当に困っている人に、困っているその時に手を差し伸べること。
このことを肝に銘じ、先頭に立って取り組んで参ります。